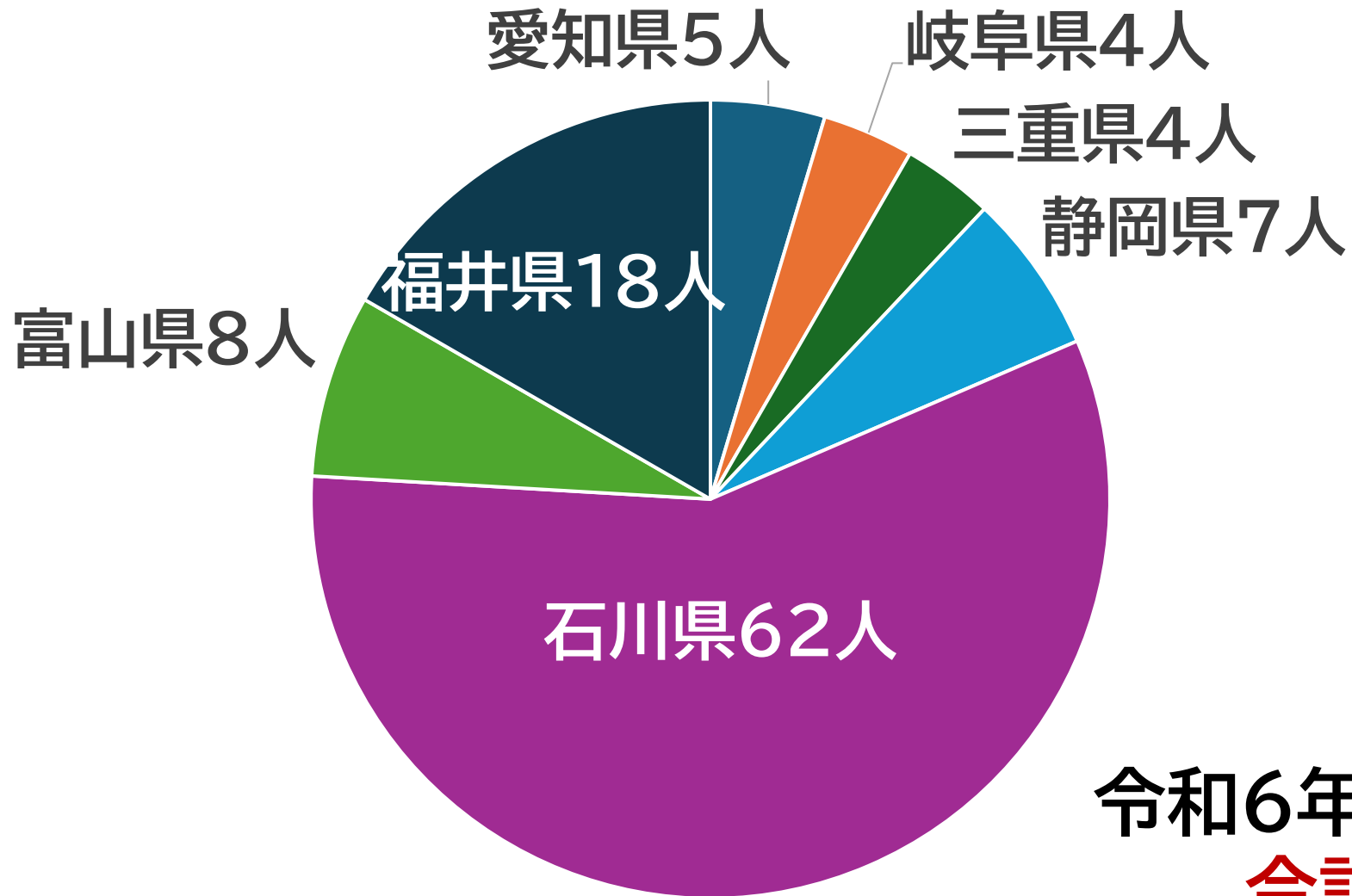


令和6年能登半島地震 支援活動ミーティング

令和6年4月8日(月)午前10時～
Zoomミーティング

金沢市社会福祉協議会地域福祉課長
石川県社会福祉士会事務局長
北脇 宜和

東海北陸ブロック社会福祉士会 能登半島地震支援活動登録者数



令和6年4月8日現在
合計108人

金沢市1.5次避難所等(額谷ふれあい体育館等)

金沢市福祉健康局介護保険課からの依頼(委託業務)

金沢市所管の1.5次避難所等の避難者の相談支援。

主に「高齢者の介護ニーズ」を把握し、必要な介護保険サービスや関係機関につなげることが目的
また、高齢者以外の相談や総合的な福祉相談窓口としても対応

1. 対象者(2月中の概算270名)

(1) 額谷ふれあい体育館・老人福祉センター(鶴寿園、万寿苑、千寿閣、松寿荘)、キゴ山ふれあい研修センターの避難者

※輪島市の住民が地区単位で額谷ふれあい体育館に集団避難。避難者同士は顔馴染みの関係である場合が多い。その内、比較的自立度の高い高齢者等が老人福祉センターへ、子どもがいる家庭はキゴ山へ移動。

(2) その他、ホテルや親族宅、アパート等の避難者

**社会福祉士のべ125人 実46人 派遣
(石川県38人 福井県6人 富山県2人)**

新規/継続	相談者	場所	方法				
新規	82	本人	218	1.5(額谷)	299	来所	0:00
継続	244	家族・親族	34	2(千寿閣)	3	訪問	0:00
		知人	4	2(万寿苑)	3	電話	0:00
		避難所スタッフ	22	2(松寿荘)	2		
		行政	4	2(鶴寿園)	15		
		関係機関	40	2(キゴ山)			
		その他	3	2(その他)	1		
				その他	3		

市の避難所は3日時点で額谷ふれあい体育館に51人、卯辰山公園健康交流センター千寿閣に38人、老人福祉センター鶴寿園に27人、同万寿苑に15人、キゴ山ふれあい研修センターに18人が身を寄せる。3月末で閉鎖した同松寿荘の11人は鶴寿園に移り住んだ。令和6年4月3日現在149名

あつまらんけ~のと！（金沢福祉用具情報プラザ）

石川県社会福祉士会の取組みを金沢市社会福祉協議会が運営する金沢福祉用具情報プラザへ移管
〔支援物資受入れ・配布・相談対応⇒相談員派遣〕

1/3(水)～支援物資提供依頼をSNS発信

■場所

1/13(土)～1/14(日)支援物資緊急配布会

①金沢市松ヶ枝福祉館

②地域包括支援センターとびうめ

■内容

- ・被災者へ支援物資提供
- ・支援活動を行う方への支援物資提供
- ・介護や子育てなど相談窓口の紹介
- ・被災者支援に関する各種情報提供

金沢市で避難生活をしている方へ

あつまらんけ~のと!
1月29日(月)～2月16日(金)
時間 13:30から15:30まで
※ただし火曜、土曜、日曜を除く

カフェ
福祉喫茶「つつみ門」にて、お飲み物（コーヒー、紅茶、ゆず湯）の無料提供

支援物資
非常食、携帯カイロ、マスク、子ども用靴なども、お住まい、お住まい、お住まい、お住まい

情報提供
各種福祉制度
避難者向け最新情報

その他
健康講座や手づくり教室など参加型の事業もイベントを企画中！

主催/社会福祉法人金沢市社会福祉協議会
協力/一般社団法人石川県社会福祉士会

問い合わせ先/金沢福祉用具情報プラザ
TEL (076)234-9900 FAX (076)234-2300
E-MAIL yogu-plaza@spacelan.ne.jp
※お車で越越しのかたへ
「このはなパーキング」駐車券(30分)を配布します。

令和6年能登半島地震により金沢市で避難生活を送られている方へ

あつまらんけ~のと!
2月17日(土)～3月31日(日)
月・水・木・金・土・日
10:00～16:00
※火曜日休館
※期間中の祝日も開催します

カフェ ※無料提供
福祉喫茶つつみ門で、飲み物（コーヒー、紅茶等）でも飲まんけー！待とるよ◎

避難生活必需品の配布
食料品、衣服、下着、子ども・おとな用オムツ、生理用品 など
※お持ち帰り用の袋や入れ物をご持参ください。
※数に限りがありますのでご了承ください。

金沢ふらっとバス利用
此花ルートを利用し、「別院通り口」で下車。

社会福祉士が各種福祉制度や避難者向けの情報を提供します

お車で越越しの方
このはなパーキング（有料）をご利用ください。100円分の駐車券をお渡しします。

※期間中に開催するイベントや情報は、随時Instagramにて発信していきます！

問合せ先/金沢福祉用具情報プラザ内 専用ダイヤル
080-3745-8998
金沢市本町1-10-1 ルキーナ金沢1階 ※火曜日休館

あつまらんけ~のと!
4月1日(月)～5月27日(月)まで延長!
令和6年能登半島地震により金沢市で避難生活を送られている方へ

カフェ
火曜日除く毎日
10:00～15:00
開館の方々とおしゃべりするのも良いし、新しいお友達を作ってワイワイするのも良いし、福祉喫茶つつみ門で楽しい時間を過ごしてください

支援物資配布
土・日・月曜日限定
10:00～15:00
食料品、衣服、下着、子ども用・おとな用オムツ、生理用品 など
※お持ち帰り用の袋や入れ物をご持参ください。
※数に限りがありますのでご了承ください。

相談窓口
社会福祉士が各種福祉制度や避難者向けの情報を提供します
※カフェと併せて開催

お車で越越しの方
このはなパーキング（有料）をご利用ください。100円分の駐車券をお渡しします。

金沢ふらっとバス利用
此花ルートを利用し、「別院通り口」で下車。

※期間中に開催するイベントや情報は、随時Instagramにて発信していきます！

問合せ先/金沢福祉用具情報プラザ内 専用ダイヤル
080-3745-8998
金沢市本町1-10-1 ルキーナ金沢1階 ※火曜日休館



あつまらんけ~のと！令和5年度実績

期間 1月27日~3月31日

■支援物資配布（56日開催）1日平均86世帯

のべ4,812世帯

初めての方の参加率	最大	3月3日(日)	37/102名	36%
	最小	3月29日(金)	0/108名	0%

■カフェ（47日開催）

のべ1,445世帯 2,832人 1日平均60人

ボランティア協力者

のべ848人（社会福祉士会のべ74.5人、実23人）

金沢市内の「みなし仮設」入居世帯数

※石川県厚生政策課担当者の予想値

2次避難から「みなし仮設」へ移ってくる被災者とライフラインが復旧して能登へ戻っていく被災者の動きを考慮すると、6~7月頃がピークか？

おおよその見込みで、6月までに少しずつ伸び幅が減っていくとしたら、
2月末755世帯→3月末1,637世帯（前月比+882）→4月末2,237世帯（+600）
5月末2,737世帯（+500）→6月末3,137世帯（+400）

※根拠のある数字ではない前提

→H30倉敷市の例

人口：約47万人

みなし仮設の戸数ピーク H30年11月末（発災から5カ月）で市内約2,400戸

ホテルや宿にとどまっている2次避難者が多いことなどから、
ピーク時期は**6~7月**（発災から6~7ヶ月）、ピーク戸数は**約3,000戸**

石川県地域支え合いセンター金沢 (被災者見守り・相談等支援事業)

石川県健康福祉部厚生政策課からの依頼(委託業務)

金沢市社会福祉協議会

3月8日(金)訪問スタート

2月末までに「みなし仮設」へ入居した755世帯へ訪問

面談 379件+不在 321件

その他 80件(合計780件)

生活支援相談員

金沢市社協 12名 **社会福祉士会 30名**

福井市社協 12名 (合計54名)

のべ24日 114人 1日平均2.4ペア

1日平均13.7件(うち面談6.6件)訪問



石川県社会福祉士会

①県内広域で支援体制を構築(実際は、みなし仮設住宅の約6割を占める**金沢市へ派遣**)※内灘町は2日間のべ4名派遣

②生活支援相談員活動者の確保

(愛知県2名 三重県3名 静岡県2名 石川県18名 富山県1名 福井県4名)

③訪問用車両(軽自動車5台リース)配置

④生活支援相談員の**宿泊拠点確保・整備**(中期的には被災者の居場所づくりを想定)

⑤**生活支援相談員のコーディネート**(募集・日程調整・決定通知・派遣先社協との連絡窓口)

⑥生活支援相談員緊急時の対応(公共交通の遅延、感染症など突発的な対応など)

生活支援相談員の所感(抜粋)

1. 被災者のニーズ

- (1) 就労していない世代(70歳代以降)が「日中やることがない」というニーズを抱えている印象があり、集いの場の周知や開設が必要
- (2) 知り合い(友達・近所の方等)とバラバラになり心のよりどころをどうしていくか悩んでいる様子が伺えた
- (3) 子育て世帯の方は転入する子どもが学校になじめるかどうか期待と不安を抱えており継続的な関りが必要
- (4) 環境が変わったことで、日頃の日課や楽しみ、運動の機会を失っている

2. 被災者と接して感じたこと

- (1) 申請や制度に関する案内を渡すと皆さん喜ばれた
- (2) 誰でも良いので話をきいてほしかった、今日来てもらい話ができ良かったと喜ばれた
- (3) 金沢市内に子どもや親族が住んでいても、いずれは地元に戻りたいと話す方が多いように感じた
- (4) あつまらんけ~のとに参加しているという方が多かった。良い交流の場になっている
- (5) 物資支援よりも金銭的支援をしてほしいという人もおり、ニーズにばらつきを感じた

被災者の相談内容(抜粋)

1. 高齢夫婦世帯

- ・みなし仮設に入居したが家賃やその他費用でお金が出ていくばかりで困る。補助金等を申請してあるがまだお金が入っていない。このままだと生活が苦しくなる。
- ・水が使えないため、下水道工事を行政には一番に優先してほしい。現在は週に3～4回自宅の片付けに行っていて、将来は地盤が固まったら小さな家を建てて、夫婦二人で暮らそうと思っている。

2. 高齢単身世帯

- ・奥能登から避難してきたが周りに知り合いもおらず寂しい。近所の人もどこに避難しているのかわからないので孤独を感じている。今は話し相手が一番欲しい。

3. 単身世帯50歳代

- ・家が火事で全焼し、地元に戻る見通しは立っていない。習字教室をしていたこともあり、金沢市の公民館で月1回習字教室を開催することとなったため、金沢を拠点に暮らし、仕事をしたいと思っている。

被災者の相談内容(抜粋)

4. 4世代家族

- ・仕事ができず収入が半分になり、今後の経済面での見通しが見えないので不安が大きい。また、今までは田舎の大きな家に住んでいたもので、今の家は、8人で暮らすには狭くプライバシーがないので、ストレスを感じる。

5. 中高年夫婦と息子

- ・息子の基本給のみで一家3人避難生活を送ることになり、生活が苦しい。定年退職したけど、アルバイト等を探そうと思っている。

6. 中高年夫婦

- ・夫婦2人、見知った人のいない場所へ移り住むことになったが、ウォーキング中に偶然地元の人と会い、うれしかった。

7. 子育て世帯+乳幼児

- ・家族3人でみなし仮設を申請したが、被災地での仕事が再開したため、夫のみ被災した家で平日生活している。子どもが幼小、妻と子はしばらく金沢で生活する見込み。

被災者の相談内容(抜粋)

8. 子育て世帯+中3、中1、小5

・準半壊で罹災証明は出たが、とてもじゃないが住める状態にない。みなし仮設も家賃上限の都合上、家族5人で3LDKを使うことになり、狭くて仕方がない。このままでは自力再建も難しく、現在、住家被害の再調査をお願いしている。

9. ひとり親世帯+中3、中1、小3

・子どもの制服はリサイクルで安く譲ってもらうことができ助かった。手続き等が煩雑ではあるが、近所に住んでいる姉など頼れる家族と情報交換をしながら、なんとかできているように思う。

10. 子育て世帯+小学生2人

・ようやくみなし仮設での生活が始まり、少しは落ち着けるかと思ったが、子どもが通う学校が小規模から大規模に変わったことや、生活環境の変化から、長女が不登校になってしまった。長男も被災からみなし仮設入居まで学校に通えていなかった期間の学習の遅れから、勉強についていくのに苦労しているようにみえる。教育現場で被災した子どもへのメンタルケアを取り組んでほしい。

今後の課題

1. 額谷ふれあい体育館等

- ・ 5月末閉鎖（予定）の際に自力で次の生活拠点へ移れない方へのサポート
- ・ 社会福祉士が委託契約の範囲でどこまで担うか金沢市と協議しておくこと
- ・ 個別支援が必要なケースのスクリーニング（再確認を含めて）

2. あつまらんけ~のと！（金沢福祉用具情報プラザ）

- ・ リピート率が高く、新規参加者が少ない（終期設定について要検討）
- ・ 地域支え合いセンターの取組みとして再編成し、実施エリアを拡大（例：地域包括20圏域）させるか（コーディネートできる人材確保が必要）

3. 石川県地域支え合いセンター金沢

- ・ 対象件数に応じた生活支援相談員の人数確保・コーディネート
- ・ 支援を必要としているケースをマネジメントできる人材確保が必要